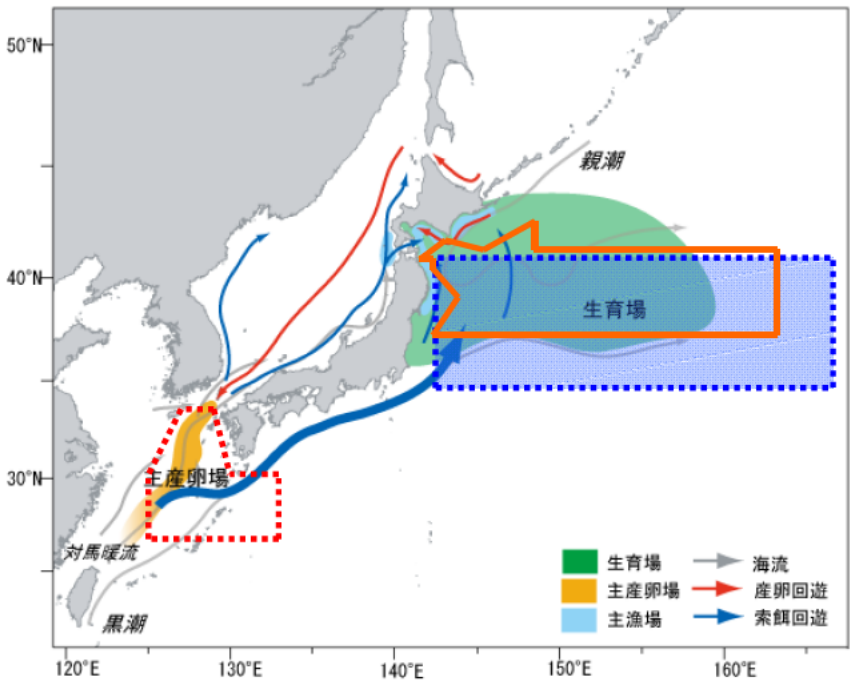
資料2－2

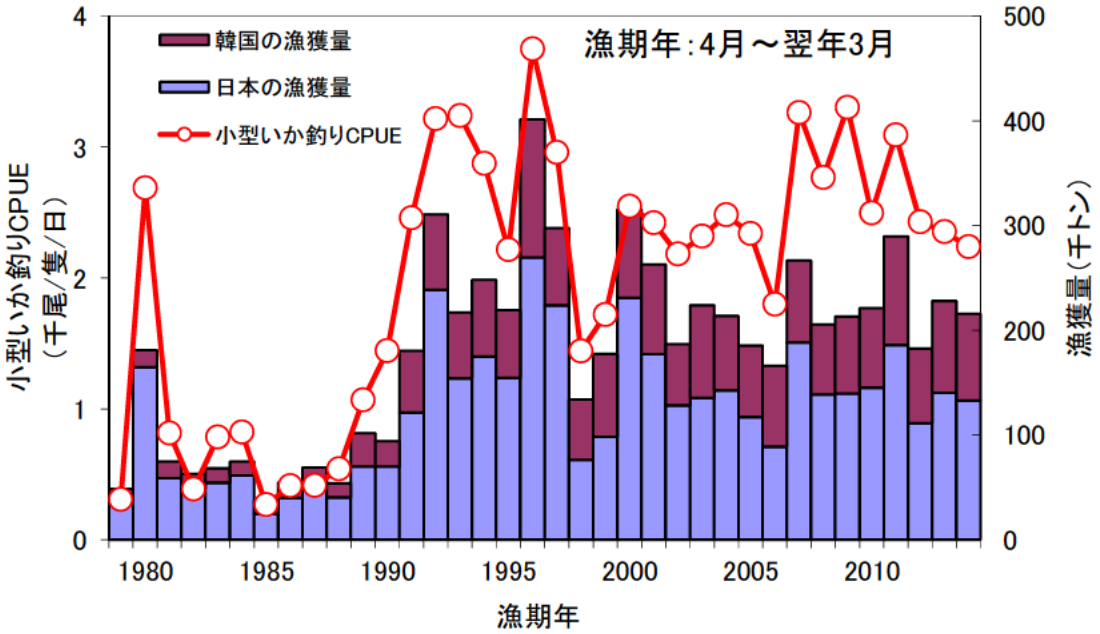
スルメイカ冬季発生系群
平成27年度資源評価結果

生態：分布・回遊・漁場

スルメイカ冬季発生系群の生活史と漁場形成模式図

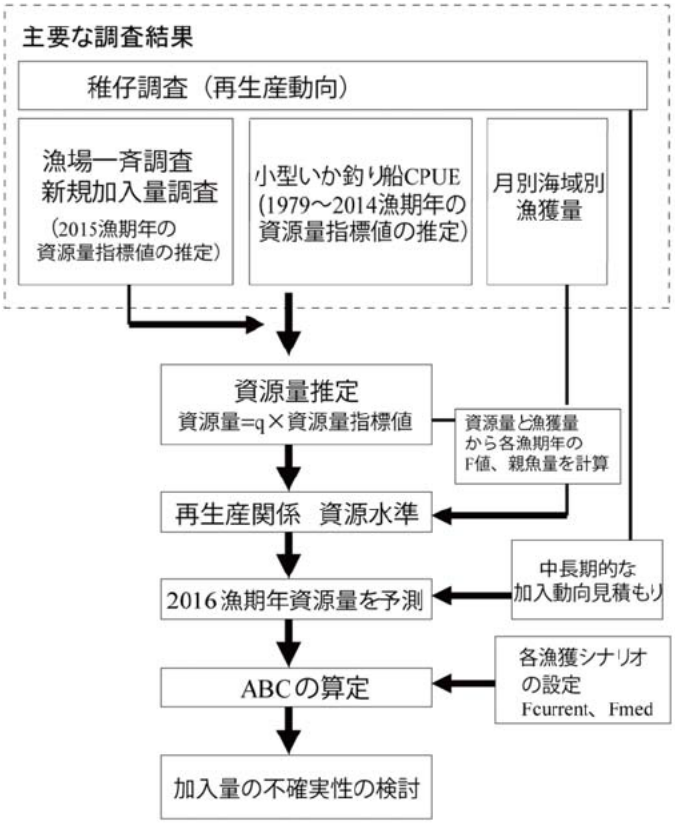


漁業の状況：漁獲量・資源量指標値の推移



- 1980年代は低水準が継続、1989年以降増加
- 2014年漁獲量　21.6万トン（近年並み）
- 小型いか釣り船CPUE　2.2千尾/隻/日（近年並み）

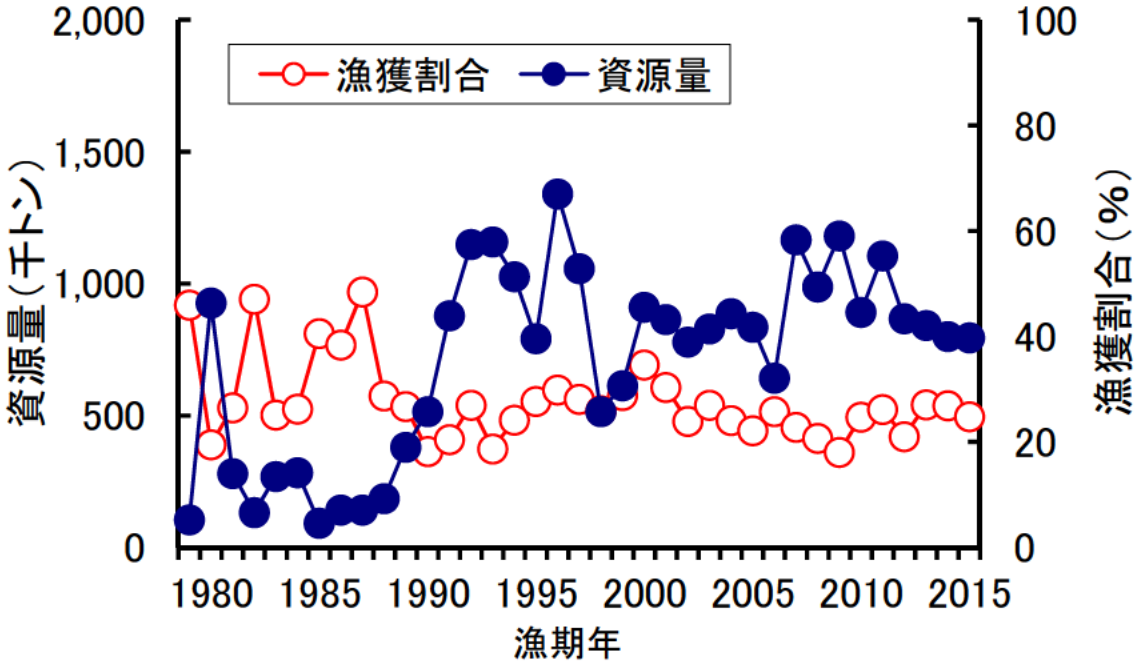
資源評価の流れ



資源量推定
1979～2014年：
小型いか釣り船CPUE

2015年：
調査船調査結果から推定

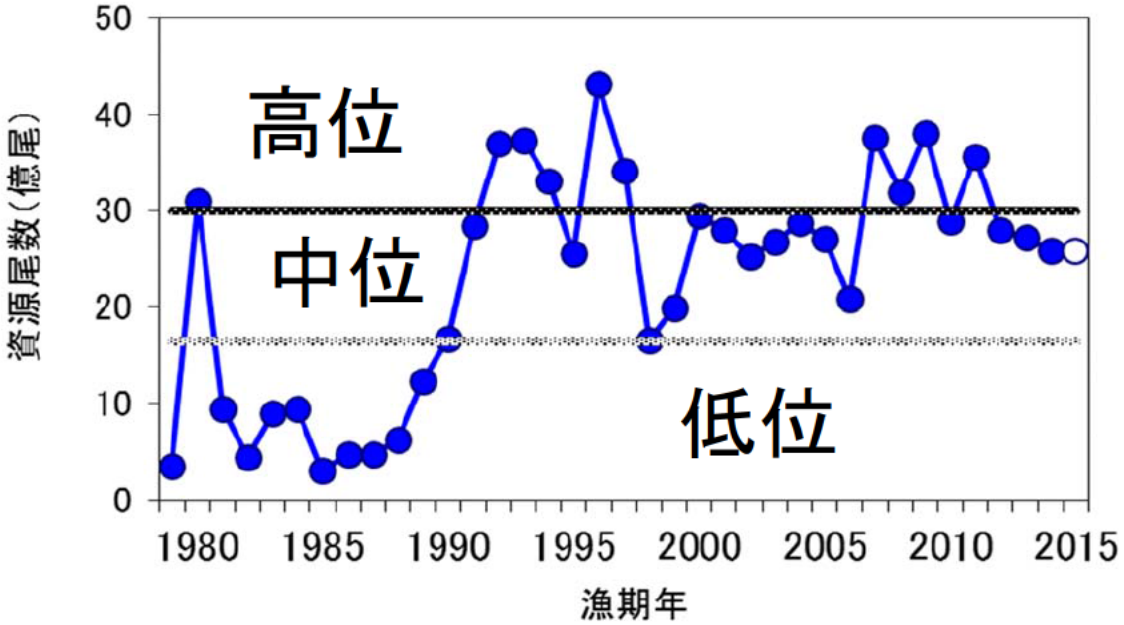
資源の状態：資源量と漁獲割合の推移



- 資源量指標値（小型いか釣り船CPUE）から資源量を計算
- 2011年以降は補正値（震災の影響）
- 2015年の資源量（80万トン）は調査結果から推定

5

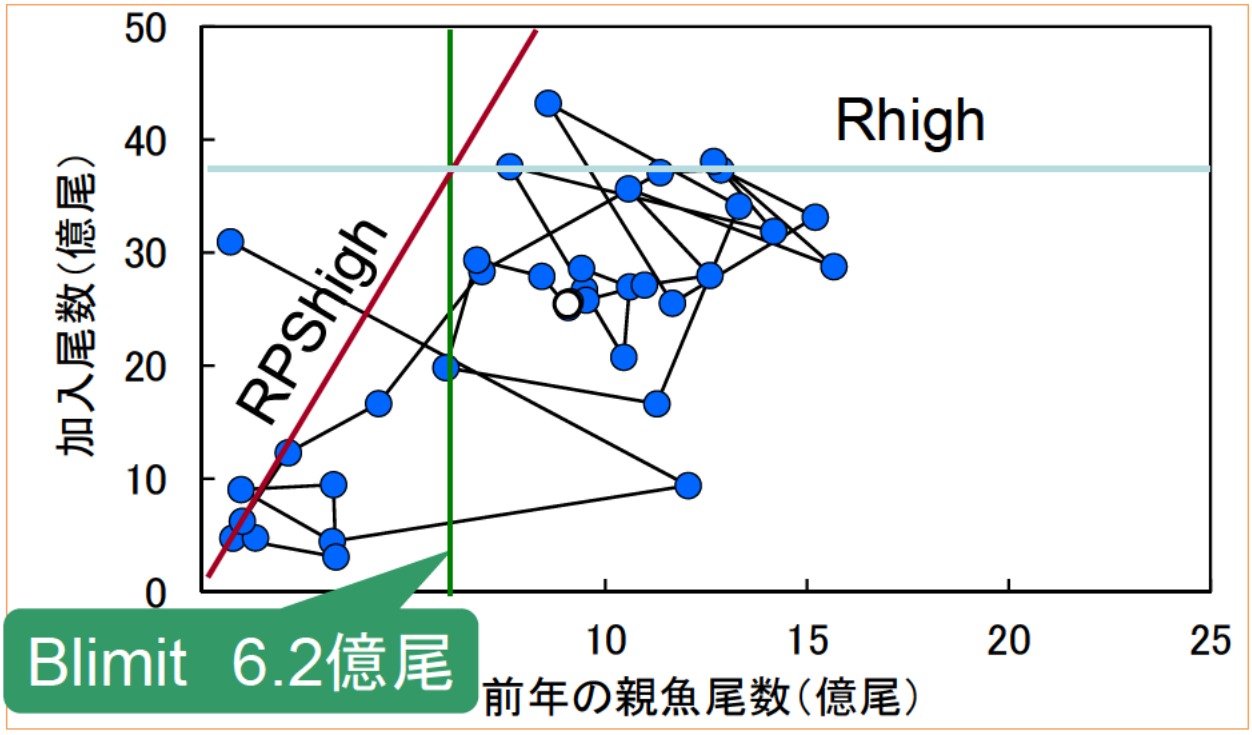
資源の状態：資源水準・動向



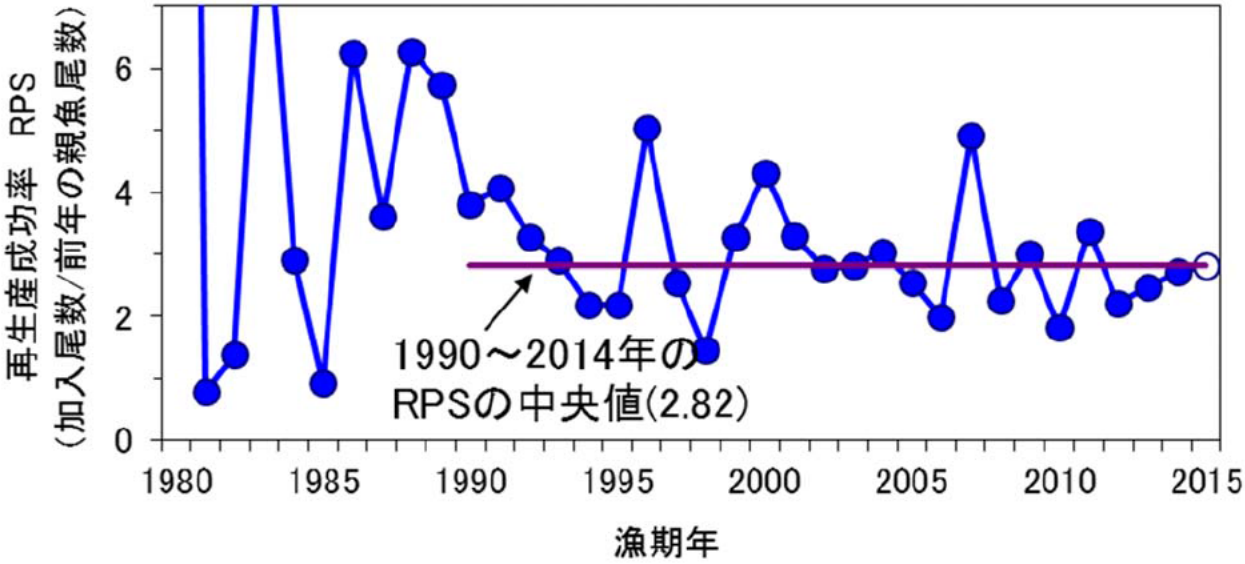
水準：中位　動向：減少

6

再生産関係とBlimitの設定



今後の加入量の見積もり

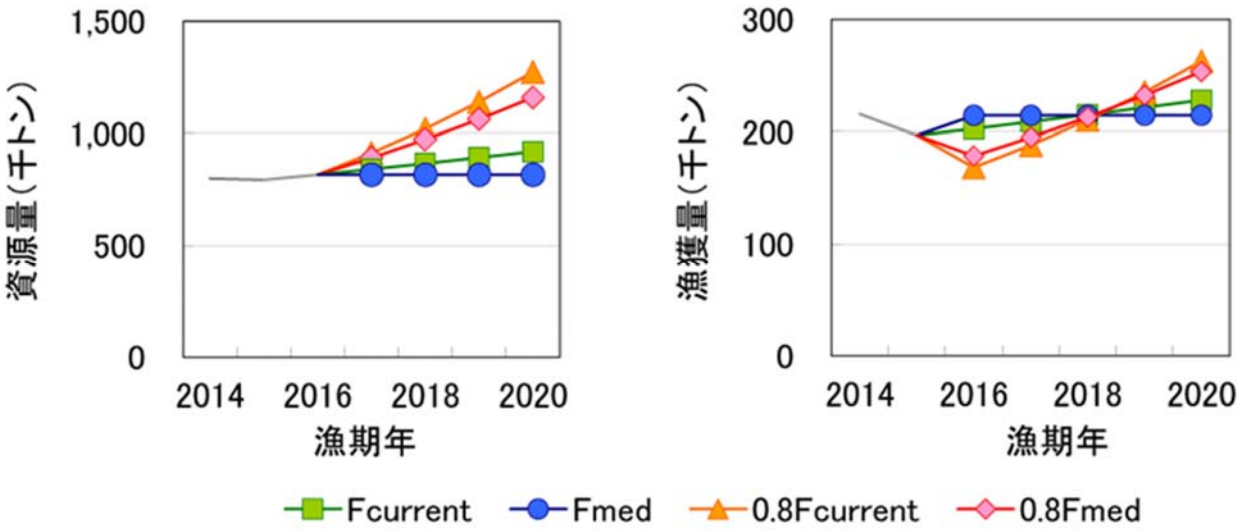


- 1990年以降の温暖期は好適な海洋環境（Sakurai et al.2000）
- 調査結果からも、海洋環境の不適な兆候はみられない
- →1990年以降の好適な時期の再生産成功率の中央値を将来予測に使用

資源評価のまとめと2016年漁期ABCの算定方法

- 資源評価
  - 資源尾数は中位・減少（昨年度：中位・横ばい）
  - 2015年漁期終了時の親魚尾数（9.4億尾）＞Blimit（6.2億尾）
  - Fcurrent＜Fmed
- ABC算定
  - **規則　1－1）－（1）**
  - F2015＝Fcurrent（2012年～2014年の平均）
  - 2016年資源尾数＝RPS（1990～2014年の中央値）×親魚尾数
- 管理基準
  - 現状の漁獲圧を維持するFcurrent
  - 親魚量を維持するFmed

各シナリオによる将来予測



シナリオ

Fcurrent:近年3年間の平均的な漁獲圧

Fmed：2014年漁期終了時の親魚量維持

2016年漁期ABC

漁獲シナリオ（管理基準）	Limit/Target	F値（Fcurrentとの比較）	漁獲割合	将来漁獲量		評価		2016年漁期ABC（千トン）
				5年後（千トン）	5年平均（千トン）	2014年親魚量を維持（5年後）	Blimitを維持（5年後）	
現状の漁獲圧の維持)*（Fcurrent	Limit	0.41（1.00 Fcurrent）	25%	100～568	255	60%	81%	203
	Target	0.33（0.80 Fcurrent）	21%	116～654	255	81%	93%	169
親魚量の維持*（Fmed）	Limit	0.44（1.07 Fcurrent）	26%	94～534	253	53%	75%	215
	Target	0.35（0.86 Fcurrent）	22%	112～631	256	76%	91%	179

＊を付したシナリオは中期的管理方針に合致する